

特定非営利活動法人 緑地雑草科学研究所 2025年12月発行

# ニュースレター 20号

## 目次

活動予告	.....	1
活動報告	.....	1
会員投稿記事	.....	4
編集後記	.....	5



赤く色づくイヌタデ (2025.9 京都)

## 活動予告

### 令和 8 年度総会・講演会の開催について

3月18日(水)に、兵庫県神戸市にて当研究所の令和8年度総会を実施いたします。令和2年以降はコロナ禍の影響もあり、書面表決にて総会を実施しておりましたが、会員の皆様と意見を交わす貴重な機会として、令和8年は対面での総会実施する次第となりました。

また、併せて講演会「里山の植生管理とネイチャーポイント」講師：楠本良延氏（農研機構西日本農業研究セ

ンター）を行います。里山の植生管理とその環境問題の関係について、昨今頻発しております熊害も絡めながら、幅広く話題提供いただくこと、計画しております。

久々の機会となりますが、皆様奮ってご参加ください。詳細については正式に決まりましたら総会のご案内とあわせ、お知らせいたします。

## 活動報告

### 令和 7 年度富山県多面的機能支払推進研修会（主催：富山県多面的機能推進協議会）

雑草インストラクター 長田大輝

2025年10月21日に富山県で行われた「富山県多面的機能支払推進研修会」にて伊藤操子先生の講演がありました。この研修会は富山県内の農業関係の方約1,000人が集まる研修会で、私は毎年勤め先の仕事でサブ会場の展示に毎年参加をしているのですが、今回は伊藤先生が講演されるということで、しっかりと仕事を抜けて聴いてまいりました。

今回の講演では、「農地まわりの雑草管理」をテーマと

し、「除草」ではなく、「雑草管理」が大切である等といった旨の内容でした。

そのために必要なのは、

- ・相手（雑草）を知ること
- ・武器（管理ツール）を知ること
- ・それら（雑草、管理ツール）をもとに戦略をもって対策を立てること
- ・地域でまとまってやっつけていかなければならないこと

農業と雑草問題は常にセットになっており、雑草で困っている方が多く、参加者の方々も非常に興味をもった様子で講演を聴いておられました。

私も仕事柄、農業関係の方々とお話することが多いので、農地まわりの雑草問題解決のために、少しでも知識（雑草や管理ツールについて）を共有していきたいと改めて思いました。



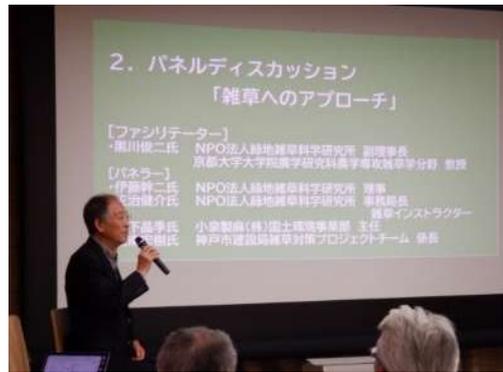
## 雑草を正しく知るシンポジウム～減らしたいのに増える雑草～（神戸市）

雑草インストラクター 小椋昭典

11月14日、神戸市主催の「雑草を正しく知るシンポジウム～減らしたいのに増える雑草～」に参加しました。普段雑草問題に関わっていますが、今回のシンポジウムを通して、私自身改めて視野の狭さを痛感しました。ただ雑草に困っているだけではなく、その背景をしっかりと把握しないと、課題解決にはならないという点です。例えば、燃えやすい雑草（メリケンカルカヤ）を放置することで火事を誘発してしまう可能性があるということも、こういった機会を通して知ることができ、今後の活動に大きくつながると思います。もっと様々な場面・場所へ赴き、自分でも考え、知見を深めていければと考えています。

このシンポジウムでは当 NPO 所属の伊藤幹二氏が講演を行い、パネルディスカッションでは黒川氏、佐治氏も登壇、神戸市の取り組みや問題解決への道筋についての議論も交わされ、興味深く聴かせていただきました。こういった取り組みが全国各地で行われていくことで、雑草問題の認識が改善され、より住みやすい日本になればいいなと感

じました。引き続き雑草インストラクターとして関わりながら、課題解消に向けて尽力していきたいと思えます。



## 令和7年度 JS 『植物管理研修』 雑草インストラクター 鶴見武弘

2025年11月27日（木）、さいたま市のスクエア JS において植物管理研修が開催されました。この研修は昨年引き続き JS（日本総合住株式会社）からの依頼にて実施したもので、全国各地から24名が参加し、芝生と雑草、樹木の管理に関しての専門的な講義に熱心に耳を傾けました。

研修では、住宅緑地に用いられる芝生の特性や、利用場面に応じた品種選定、芝生と雑草管理について伊藤操子先生が講演されました。また、樹木の剪定および管理に関しては伊藤幹二先生が講演を担当されました。

午前中は屋内での講義を行い、午後は屋外研修として秋

ヶ瀬公園に移動し、実地での講義が行われました。現場を想定した内容に、参加者は高い関心を示していました。

研修中には、参加者から日頃の現場で直面している課題



や具体的な管理方法について多くの意見や質問が寄せられ、活発なディスカッションが展開されるなど、非常に有意義な研修となりました。



## 「草と緑」第17巻（2025年発行）記事の紹介

伊藤操子（「草と緑」編集委員長）

5編の記事が12月30日付けでJ-Stage（科学技術振興機構電子ジャーナルプラットフォーム）に đăng載されます。  
<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/iuws/-char/ja/> からPDFをダウンロードしてお読みください。最初の3編では雑草・雑草管理で最も深刻な今日の問題を、後の2編では今日最大の問題雑草クズの昔の姿を伝統産業を通じて紹介しています。緑地雑草科学の守備範囲は多様です。以下の抄録は、前3編は著者の要約から転載しました。

### グリホサート抵抗性雑草の特性と日本における出現状況

富永達（京都大学名誉教授）

除草剤の使用は、農耕地、非農耕地に関わらず合理的・持続的な雑草管理に極めて有効で不可欠な手段です。他方、除草剤に対して抵抗性をもつ雑草の出現が世界中で報告されています。この除草剤抵抗性雑草の出現は、除草剤が処理された個体があらたに抵抗性を獲得したことによるものではなく、当該除草剤に対して遺伝的にもともと抵抗性を有していた個体が除草剤散布後も生残、繁殖し、その除草剤が連用されることによって抵抗性個体の頻度が高くなり顕在化した結果です。グリホサートは1974年に商品化されました。また、1996年にアメリカでグリホサート耐性遺伝子組換えダイズの栽培が始まりました。1996年にはオーストラリアでグリホサート抵抗性ボウムギが初めて報告され、日本でも2013年にネズミムギで報告されまし

た。現在31か国の62草種で抵抗性の出現が報告されています。雑草の除草剤抵抗性は、その機構によって作用点抵抗性と非作用点抵抗性に大別されます。グリホサートの作用点抵抗性は、その標的酵素のEPSPSにおけるアミノ酸置換や遺伝子増幅によって生じます。非作用点抵抗性は、グリホサートの移行抑制・阻害などによるもので、ABCトランスポーターが関与する例も報告されています。雑草の除草剤抵抗性の進化を避けるためには、特定の除草剤に過度に依存せず、作用機作が異なる除草剤の使い分けを図り、除草剤と他の除草方法をうまく組み合わせることが必要です。

### ナガエツルノゲイトウ (*Alternanthera philoxeroides* (Mart) Griseb.) : 生態とそこから考える今後の管理

井原希（農研機構植物防疫研究部門）

南米原産のヒユ科多年生草本であるナガエツルノゲイトウは、世界30ヶ国以上に侵入し、各地で生態系被害や農業被害などをもたらす侵略的な外来雑草である。日本では、1989年に兵庫県で初めて確認され、現在まで東北以南で侵入が確認されている。原産地以外の侵入地域では主に節を有する茎や根の断片（以下、断片とする）から栄養繁殖する。茎が中空で節から折れやすいため、節を有する茎断片が水の流に乗って移動し流域単位での分布拡大が懸念される。また、ナガエツルノゲイトウの環境適応力は

高く、水域から陸域まで幅広い環境に生育する上、繁殖力、再生力が大きく定着すると根絶が非常に難しい。ナガエツルノゲイトウの管理は、未侵入地域や侵入初期の地域では早期発見・早期対策が重要である。発生地では不用意に断片を生じさせないように、除草剤の利用などによる管理が望まれる。流域単位で分布を拡大させるナガエツルノゲイトウを効果的に管理するには、河川、水田、水路など本種の発生場所を一体的に管理する面的な総合防除が必要であり、今後、それを実現するための関係者間の情報共有、連携体制の構築が求められる。

### メリケンカルカヤ (*Andropogon virginicus*L.) : 高い侵略性を支えるその属性

伊藤操子 (マイクロフォレストリサーチ株式会社)

世界各地に帰化している米国中北部原産の多年生イネ科雑草メリケンカルカヤは、現在では東北地方にまで分布を広げ、都市・市街地域の空地、道路・鉄道・河川・公園などではもちろん、山間部の耕作放棄地などでも急激に目立つようになった。この高い侵略性を支えている最も顕著な特性は土壌適応幅が非常に広いことで、他種が生育できないやせ地・強酸性土壌 (pH3) にも容易に侵入定着できる一方、肥沃地では旺盛に生育する。さらに、枯死した茎葉が長期間 (刈らなければ約1年間も) 束生のまま残存することも特徴的である。多年生でありながら根系やほふく茎のような貯蔵器官をもたない本種では、枯れ行く茎葉からの養分の還元が、翌春からの新生長の栄養源になっていることが推察される。また、繁殖は風散布体 (長毛をつけた花序) によるが、それは風圧での移動に適した巧妙な形状となっている。以上のように、メリケンカルカヤの侵略性を支えている性質は、すでに全国を席卷している大型多

年生種とは異なるところが多い。今後、生活圏の環境・社会変化の不確実性が高まるなか、どのような種と属性が侵略性・攻撃性を発揮するのか、柔軟に見守っていく必要を感じた。

### 特集：有用植物としての葛

本記事が掲載されていた「葛とクズ」(第10巻特集号)が昨年絶版になったにつき、一部修正のうえ今回第17巻に転載することにしました。葛は万葉集にもよく詠われ秋の七草として愛でられてきたように古来里域に普通に生育し、根は葛粉や薬、つるは葛布、葉や食用や飼料として全身余すところなく利用されていた非常に重要な植物でした。以下の2編は、伝統産業として今も葛粉・葛布の生産に携わっている方によるその歴史と現状の紹介です。厳しい材料の選択・採取、もっと厳しいでんぷんや繊維の精製作業などがあっても、その高い品質が愛されて今も地域的に存在する日本の伝統文化ですが、今後の継続への課題にも言及しています。以下に、記事の主な項目を挙げておきますので、ぜひ本文をご覧ください。

### 葛粉の話：吉野本葛の歴史と次世代への取り組み

川本あづみ (株式会社井上天極堂/葛ソムリエ)

1. 葛粉づくりの歴史、2. 葛粉産業の現状、3. 材料の塊根について、4. 葛粉の特性と製造方法、5. 葛粉利活用活性化に向けての課題 (葛食育プロジェクト ; 「葛ソムリエ」資格制度)。

### <対談> 葛布の話：掛川葛布産業の歴史とその継承に向けて

小崎隆志 (小崎葛布工芸株式会社)・伊藤幹二 (NPO 法人緑地雑草科学研究所)

1. 衣料としての葛布の歴史、2. 繊維材料の蔓について、3. 葛布の製造方法、4. 掛川葛布産業の変遷と今後の課題。



### アグロ カネショウ株式会社 営業部グリーン課 清水貴康

弊社は、農薬輸入専門会社として昭和26年に兼商株式会社として設立しました。初めは果樹の害虫防除剤を取り

扱い、創業者の出身地である青森県のリンゴ農家を初め、全国各地の果樹農家から高い評価を受け事業を拡大してきました。そこには農家への直接サービスが重要という考えがあり、ニーズに応える技術サービスを基に農薬を販売し、その後、製造・研究開発も開始しました。

昭和 60 年に社名をアグロ カネショウ株式会社に改名し、その後も順調に事業を拡大してきましたが、東日本大震災及び原発事故の影響で事業の存続も危ぶまれる事態にもなりましたが、皆様の支えにより 75 周年を迎えました。また、昨年末に出光興産のグループ会社として新生アグロ カネショウ株式会社として再出発しています。

### 雑草との関わり

弊社の中心は果樹・野菜向けの農薬販売事業ですが、その他には緑化部門があります。基本はゴルフ場向けの除草剤を販売しており、雑草はスズメノカタビラ、ヒメクグなどで、芝生（写真 1）がある為薬害と効果の紙一重のところで戦っています。



写真 1. ゴルフ場のグリーン周りに発生しているヒメクグ

他には鉄道向け（写真 2）で粒状の除草剤の冬期散布を推奨していますが、お客様には冬期に除草剤を散布するというイメージが無い為、まずは現地試験行い実際に効果を見てもらい納得してもらう事から活動を始めています。



写真 2. 鉄道での除草剤効果

最近では太陽光施設（写真 3、4）での雑草対策で、太陽光施設では水が用意できないという課題があるため、ここでも粒剤を推進し刈払いの回数を減らすなど、コストはかかりますが労力軽減を目的に使用していただいています。但し、粒剤だけでは防除しきれないクズ、ススキ、セイタカアワダチソウ、メリケンカルカヤなどの難防除雑草が悩みどころですが、刈払いなどで対応しています。



写真 3. フェンスのセンサーにクズ等が巻き付かないように除草剤を処理



写真 4. 雑草がパネルに影響の無いように除草剤を処理 手前は無処理

今後は、ドローンを使用した除草剤散布、より労力軽減、人材不足に対応できるような方法を目指していきたいと考えています。

## 編集後記・募集

早いもので今年も残りわずかとなりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか？今年も 1 年間無事活動できたこと、心よりお礼申し上げます。来年も皆様のご支援の程、よろしく願いいたします。

今年一年を振り返ると、例年に比べ当 NPO への講演依

頼が増えてきた感触があり、年を経るごとに雑草問題への意識の高まりを感じています。来年以降、会員の皆様が集まって意見交換できる場を作っていくよう計画もしておりますので、ぜひとも積極的なご参加をお願いします。

また、次回、第 21 号（3 月刊行予定）について、会員

の皆さまのご協力を頂きたく、下記のコーナーへのご投稿をお願いする次第です。

- ・テーマ“困っている雑草”について、意見や技術情報など
- ・自由投稿：日頃の気づき、主張したいこと、技術・文献紹介等
- ・所属団体・企業の紹介

今号またはこれまでの記事についてのコメント、今後講演会や草と緑で取り上げて欲しいテーマや、雑草や雑草管理についての疑問・質問・感想なども歓迎します。

ご連絡先：佐治健介 ([k-saji@bousou-ken.org](mailto:k-saji@bousou-ken.org))

ページ編集：宮井駿（京都大学雑草学研究室院生）